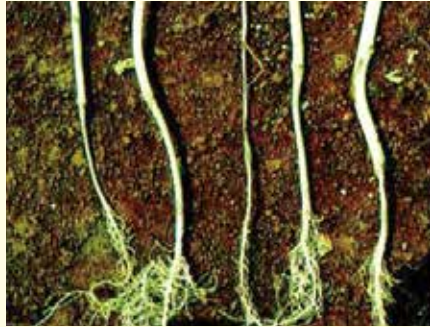




# テクニカルダイアリー



写真① 苗立枯病  
〔農文協電子図書館より引用〕

● **苗立枯病**(写真①)  
 〈発生時期・要因〉土壌水分が多いと発生しやすく、定植後にかけても発生します。未熟な有機物の施用により発病が助長されます。

発生しやすい病害

● **初期防除の徹底**  
 定植前にベリマークSCを注し、2〜3週間後にベネビアODの散布を行います。コナジラミが発生する前から、予防と行いましょう。

● **ハウス内外の雑草を除去**  
 コナジラミはトマトだけでなく雑草に潜伏し、ハウス内に侵入してきます。ハウス内はもろろんのごとく、周囲の除草もしっかりと行いましょう。

黄化葉巻病対策

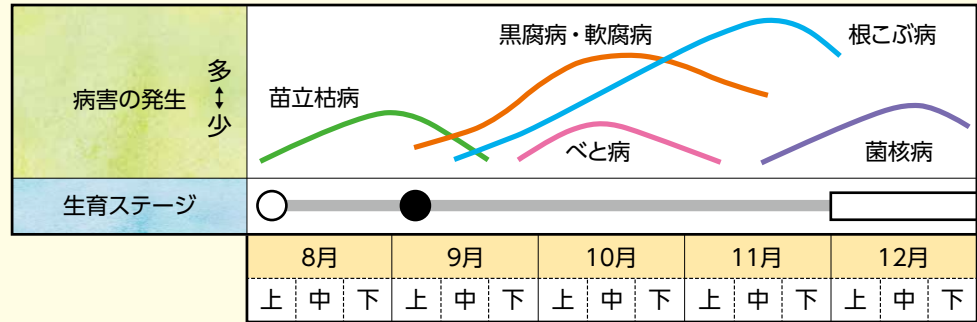
● **防虫ネットの展開**  
 開口部(特に出入口)にネットを展開し、コナジラミの侵入を防ぎましょう。推奨は0.4ミ目合いです。1ミ目でも効果はありますので、展開するようにしましょう。

● **黒すす病**(写真②)  
 〈発生時期・要因〉気温が25℃前後の時期の降雨や強風によって発病が増えます。9月以降の台風通過後に多発します。  
 〈症状〉蕾の先から黒変してカビが生じます。花蕾症状の前に、葉に黄化・黒点症状が出ます。

● **べと病**  
 〈発生時期・要因〉春や秋の気温差が大きい時期に発生しやすく、降雨が続いた場合にも発病が多くなる傾向です。  
 〈症状〉発病初期は葉に暗緑色の病斑が発生し、その後黄色・茶色に変色します。

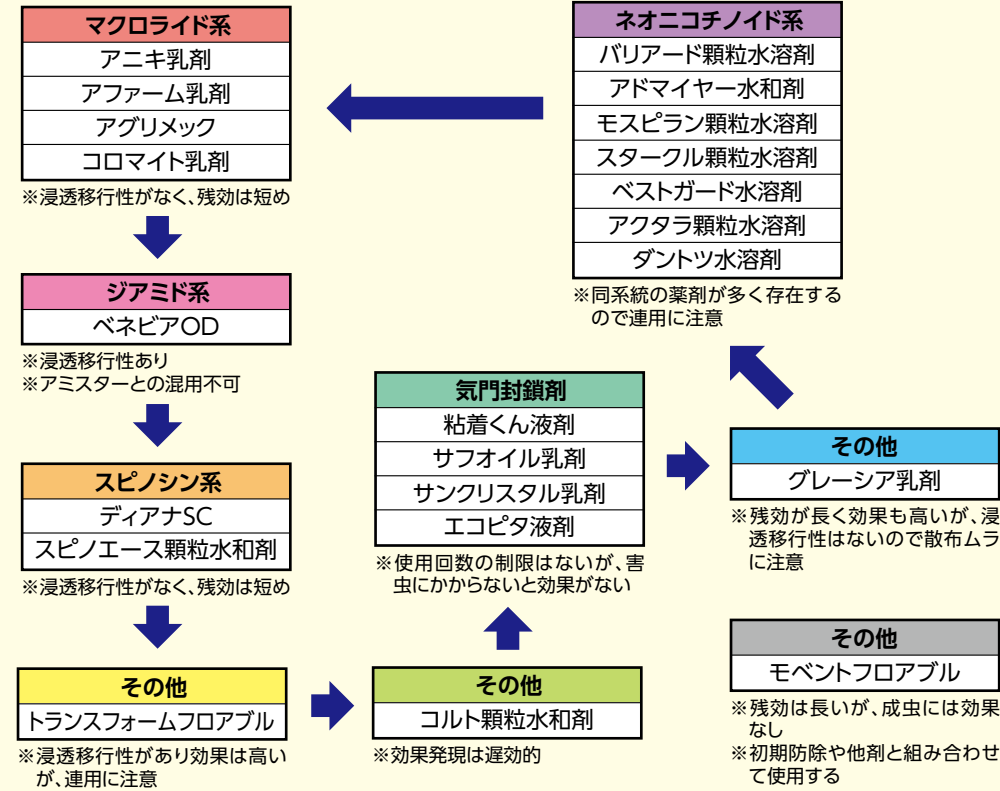
● **軟腐病**  
 〈発生時期・要因〉定植後50日ごろの時期、生育中期から収穫期にかけて発生。曇天・雨天が多く高温多湿になりやすい時期や台風・大雨の後に発病が増える傾向です。  
 〈症状〉地面に接した部分から黄褐色に変色し、葉や茎が軟化・腐敗し悪臭を放ちます。

表② 発生時期の目安



写真② 黒すす病

図① ローテーション散布の例



表① 生育ステージに合わせた灌水のポイント

生育ステージ	灌水量	ポイント
定植前	全面にたっぷり灌水	活着促進のため、畝内の水分ムラが無いようにする。
定植後～1段目着果まで	灌水量は控えめに(目安: 0.5～1L/株/日)	根をしっかり張らせる。
1段目肥大期から(8月)	灌水量・頻度を増やして畝を乾燥させない(目安: 2L/株/日)	葉を大きくつくり、果実に直射日光を当てないようにする。 ※肥大期の果実温度が高過ぎると収穫期の裂果につながる。
摘芯後から(9月下旬から)	灌水量・頻度を減らして畝はやや乾燥気味に管理。(目安: 1L/株/日) ※収穫段数が減るごとに、灌水量も少しずつ減らしていく。	摘芯・摘葉により植物体内での水分の行く場所が減ると同時に気温が下がり始める頃なので、果実の水分吸収を抑えるための土壌水分の管理が重要。さらに、最低気温14℃以下で裂果が発生しやすくなるので、栽培後半の温度管理にも注意が必要。

● **裂果対策**  
 裂果は急激な水分の変化や温度の変化で発生します。灌水方法に注意し、急激な変化を与えないようにしましょう(表①参照)。

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市 営農なんでも相談室 (本所 営農部内)  
 ☎0120-972-860

表③ ブロッコリーに登録のある農薬

薬剤名	対象病害名	使用時期	希釈倍率	使用回数	特性
リゾレックス水和剤	苗立枯病	収穫21日前まで	500倍 (3L/m <sup>2</sup> 灌水)	育苗期2回以内 定植後1回	予防
オロンディスウルトラSC	べと病	収穫7日前まで	2000倍	2回以内	予防・治療
ピシロックフロアブル	べと病	収穫前日まで	1000倍	2回以内	予防
フォリオゴールド	べと病	出蕾前 (ただし収穫21日前まで)	1000倍	2回以内	予防・治療
スターナ水和剤	軟腐病	収穫14日前まで	2000倍	2回以内	予防・治療
メジャーフロアブル	黒すす病	収穫前日まで	2000倍	3回以内	予防・治療
パレード20フロアブル	黒すす病	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内	予防